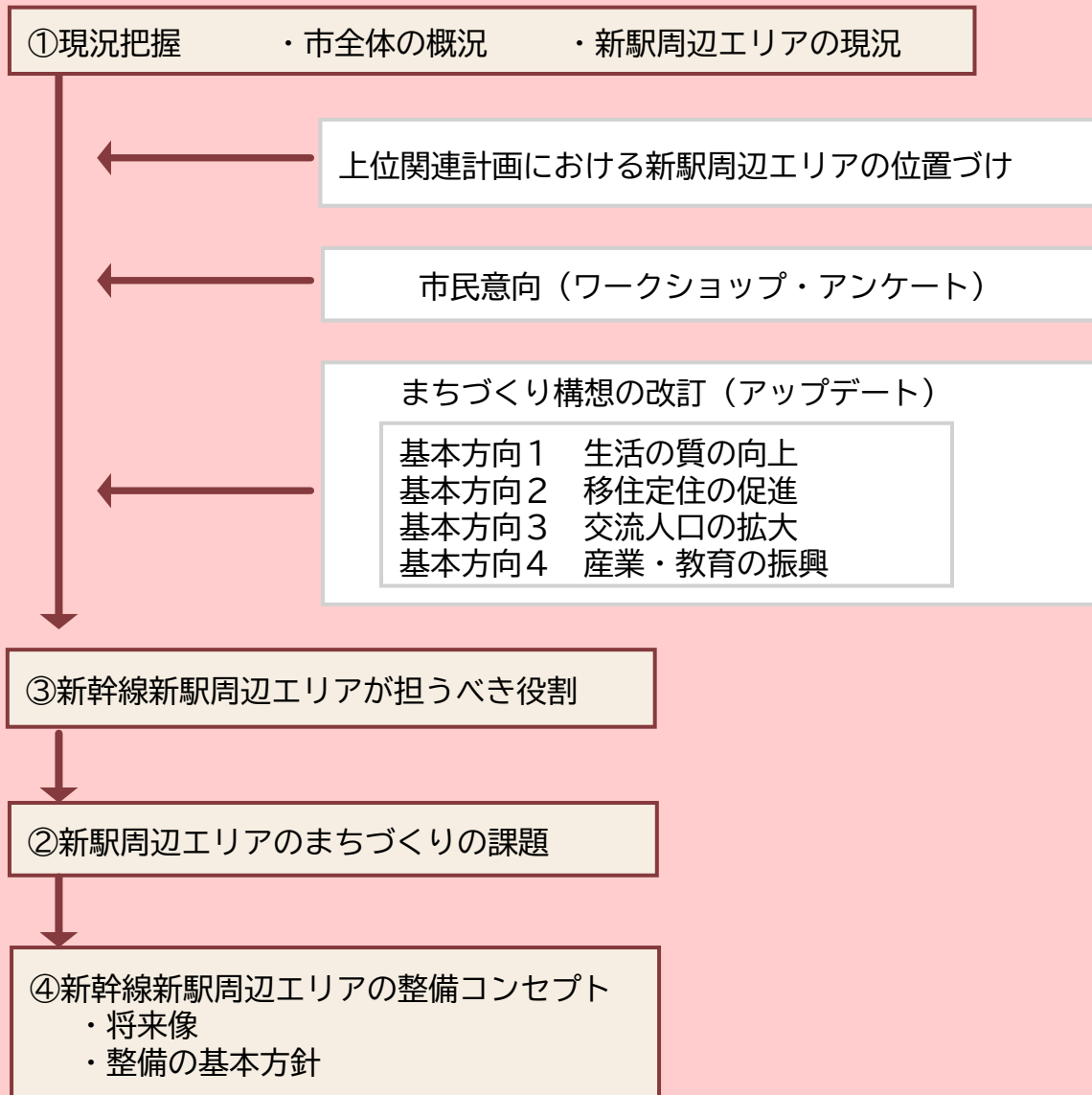


整備コンセプト（案）検討の流れと計画策定に向けて

今回委員会で提示する内容（本資料）



次回以降で提示する内容

- ← 新幹線駅の事例調査に基づく参考とすべき整備ポイント
- ← 将来利用者推計などを踏まえた必要規模の算定

- ・土地利用ゾーニング、交通アクセス
- ・導入すべき都市機能
- ・整備方針、整備イメージ
- ・段階的な進め方、整備スケジュール
- ・実現に向けた今後の検討課題

新幹線新駅周辺エリアの現況

計画対象地は、現状は農地等に囲まれ将来的には大規模な土地利用が可能であるとともに、鉄道、高速道路、主要幹線道路等の交通条件において利便性が高く、小浜市の新時代に向けた先進的なまちづくりの基点となり得る地域である



【土地利用】

- ・計画対象地周辺には農地が広がっており、農家組合や個人農業者により営農環境が維持されている。
- ・JR路線を跨いだ南側は、低層住宅や店舗、事務所といった市街地が形成されている。
- ・西側には集落が存在し、対象地と道路で接続されている。

【交通アクセス】

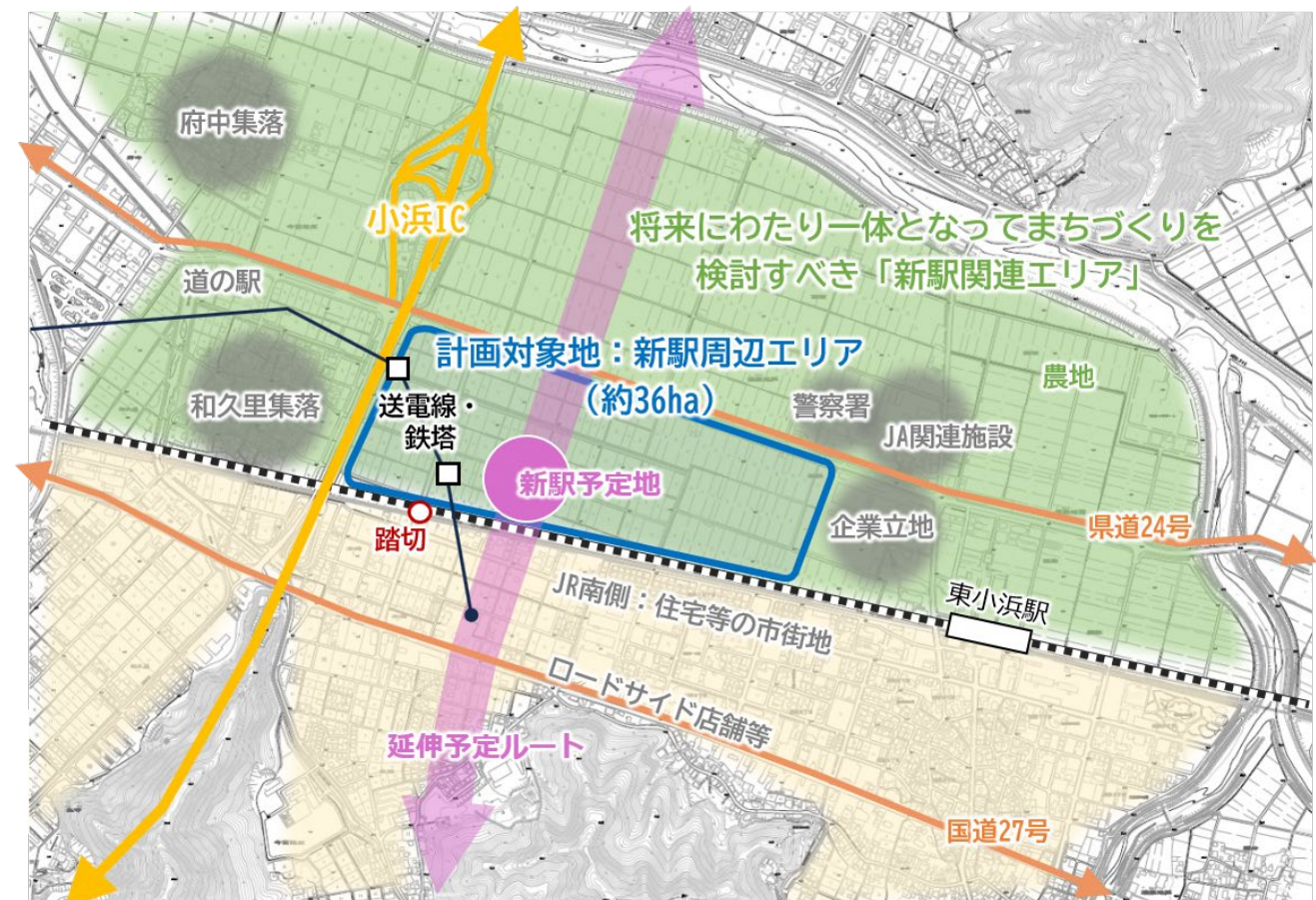
- ・高速道路IC、県道24号、国道27号に囲まれ、広域の自動車アクセス性が非常に高い。
- ・JR小浜線の東小浜駅、小浜駅の間地点に位置しており、中心市街地まで2km程度の距離。

【都市機能集積】

- ・隣接して、道の駅若狭おばま、警察署、JA関連施設、研究施設（ニデック）などが立地。
- ・JRの南側には、国道27号沿いにロードサイド店舗が複数立地。

【地形、支障物等】

- ・高低差はほとんどない、広く見通しの良いエリアである。
- ・JR南側の小浜変電所から繋がる送電線鉄塔が対象地西部を横切っている。（景観や高さに制約）



上位計画における新幹線新駅周辺エリアの位置づけ

●第6次小浜市総合計画のまちづくりの考え方における位置づけ

新時代に向けたまちづくり

北陸新幹線全線開業により高速交通環境が飛躍的に向上し、首都圏と直結し関西圏への通勤・通学が可能となり、交流人口の増加をはじめ、移住・定住への対応など、全線開業がもたらす効果を最大限に活かした新たなまちの実現、悠久の歴史と風土が活きる『新たな時代の御食国』の実現が期待される。

●都市計画マスタープランの全市の都市構造における位置づけ

広域ネットワークを活かしたまちづくり

舞鶴若狭自動車道の交通網の整備により、関西圏、中京圏、北陸圏等の広域ネットワークが形成され、若狭地域における拠点都市として周辺都市との連携強化を目指す。また、道の駅若狭おばま周辺を交通結節拠点として位置づけ、まちなか誘導の拠点及び周辺観光への発着拠点として位置づけ、小浜ICと市街地を結ぶ(都)小浜縦貫線の沿道一帯をまちなか導入軸に位置づけ、まちの玄関口として来訪者を心地よく迎え入れる質の高い空間を形成する。

●福井県都市計画マスタープランにおける広域的な位置づけ

歴史・文化の若狭国・若狭路の玄関口

若狭湾沿いの豊かな自然と古代からの歴史・文化や観光資源が豊富な“古くて新しい魅力”持つ地域で、地理的・歴史的に京都や滋賀との交流が深く、関西圏からのアクセスもよい「御食国若狭」の起点となる玄関口である。

新駅周辺整備に関する市民意向（市民ワークショップ、若者アンケートより）

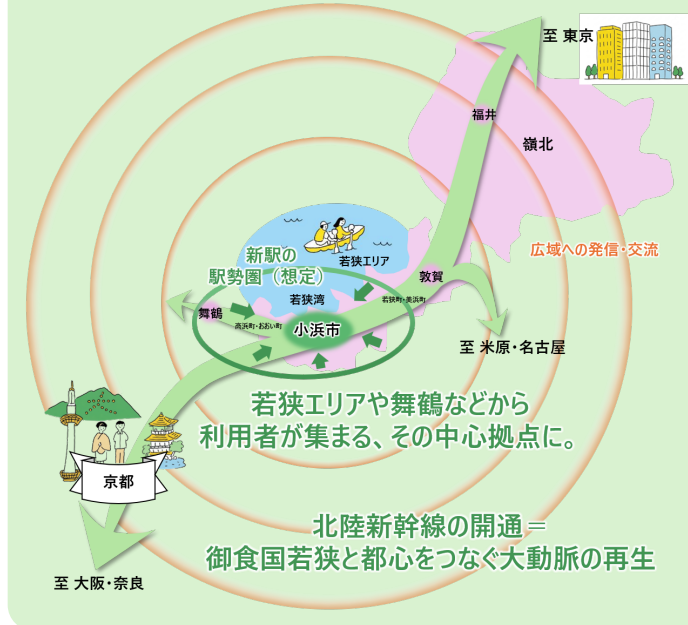
- ・新駅周辺エリアは、来訪者・市民の両方にとって魅力的な滞留・回遊の拠点になる機能や空間を整備することが重要。
- ・新駅自体もシンボルとなり、また、ショーウィンドウのように立ち寄りを促す装置として機能すると良い。
- ・新駅の直近には、来訪者を惹きつけ、気軽に小浜の魅力を味わえる施設と、交通結節拠点を。
- ・市民は、新駅周辺にイベントや行事の開催など市民活動のためのに訪れ、来訪者に対しても市の暮らし・文化を魅せる、交流の場を創出。
- ・本格的な小浜の魅力を味わうのは、既存の中心市街地まで呼び込む。
- ・その他、業務・宿泊など受け皿となる機能も導入。

新幹線新駅周辺エリアが担うべき役割

人・モノ・情報の広域高速交通ネットワークの結節点（中継点）

嶺南・若狭エリアのゲートウェイ（玄関口）

広域の役割イメージ



新駅周辺の役割

【キーワード】

- ・御食つ国若狭の玄関口
- ・手軽に感じられる小浜らしさ
- ・市民の新たな活動の場
- ・来訪者の受け皿機能
- ・地元に根付き働く、学ぶ
- ・チャレンジできる場 など

市内の各エリア

【キーワード】

- ・誇りある本物の小浜の資源
- ・満足度高い豊かな暮らし
- ・広域にも行きやすい便利な生活 など

新幹線新駅周辺エリアのまちづくりの課題

課題①

広域の交通結節を担うハブ拠点にふさわしい整備が必要

対象地は新幹線新駅、高速道路ICによる広域の交通結節点となるインパクトが非常に大きいエリアである。それを、小浜市および若狭地域全体にとっての大きなメリットとして活かし、モノ・人・情報のハブ拠点にふさわしい新たなまちづくりを進めていくことが求められる。

課題②

市民と来訪者の双方にとって魅力ある小浜らしさの創出が必要

市民の暮らしを向上させる機能と、来訪者が地域魅力を感じる機能が双方にとって魅力的で、生活の質を向上させる機能の充実や、小浜らしさを存分に感じるまちづくりを進めていくことが求められる。

課題③

中心市街地と一体的に考え、市全体で相乗効果の発揮が必要

小浜市の既存中心市街地と別で考えるのではなく、お互いに補完し合い、相乗効果を高めていけるように、中心市街地のまちづくりと連動し、機能連携や役割分担を明確にしたまちづくりを進めていくことが求められる。

課題④

長期を見据えて段階的に更新しながら、実現性を高める方策の検討が必要

北陸新幹線開通までには長期にわたり、また開通後も段階的に開発エリアが広がることが想定されるなど、広大な周辺エリアを計画的かつ段階的にアップデートしていくことが求められる。また、事業の実現性を高めるためには、民間事業者や様々な主体との連携が不可欠である。

整備コンセプト (案)

新駅周辺の将来像

(仮)

古(いにしえ)から新時代への架け橋となる若狭おばま 交流ゲートウェイ



小浜の魅力は、若狭湾の豊かな自然のもと育まれた「御食国（みけつくに）」の豊かな食文化や、京都・奈良とつながる歴史・文化資源などが融合した機能や風景が、暮らしの中に息づいている点にあります。

北陸新幹線の整備により、古くから人・物・文化の交流を支えてきた若狭おばまが、都市圏を結んできたかつての交流の結節点として再構築され、役割がますます高まることが期待されます。

特に本計画の対象である新駅周辺は、重要な結節点として国内外から人・モノ・情報が集まるだけでなく、市民の活動の場ともなり、来訪者との交流が生まれることで、小浜の暮らしや文化の魅力を身近に感じられ、発進する玄関口となることが求められます。

こうした背景を踏まえ、古くから受け継がれてきた文化や暮らしを未来へつなぎながら、新たな価値を創出し続け、新時代の「交流ゲートウェイ」の実現を目指します。

新駅周辺整備の基本方針

先述の課題①～④に対応するため、新駅周辺の整備において、以下の基本方針を設定します。

基本方針1 広域交通の拠点性を活かした高次都市機能強化の推進

- 1-1 新幹線、高速道路の広域交通の拠点性を活かし、広域交流のニーズを受け止める高次都市機能（宿泊・業務・情報発信等）の整備
- 1-2 国土幹線軸のリダンダンシーに資する大都市のバックアップ機能や、地域で働く・チャレンジできる場の強化

基本方針2 小浜の誇る資源を活かした地域交流の場づくりの推進

- 2-1 小浜の誇る自然、歴史・文化、くらしの魅力に来訪者が触れ、体感できる場の創出
- 2-2 市民の日常の新たな活動の場となり、市民の日常利用と来訪者の交流が生まれる滞留・交流空間の形成
- 2-3 小浜らしい景観やデザインに配慮した駅施設や駅周辺エリアの整備

基本方針3 既存中心市街地と相乗効果を発揮する都市軸形成の推進

- 3-1 新駅と市内各地を結ぶ2次交通など公共交通・道路ネットワークの強化により円滑な乗継と回遊性を確保し、東西都市軸の形成
- 3-2 既存中心市街地と合わせて、市内の都市機能の再配置と連動したまちづくり

基本方針4 計画的で実現性の高いまちづくりの推進

- 4-1 社会動向や需要の変化を踏まえて段階的な整備と柔軟な土地利用転換を図り、長期にわたり計画的にアップデートしていくまちづくり
- 4-2 モビリティやデジタルの将来の技術革新を柔軟に取り入れるまちづくり

上記の基本方針に基づき、次回以降、具体的な整備方針・土地利用ゾーニング・導入機能などの案を示していきます。